

保健体育科 学習指導案

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校 松山 晴香

1 対象・日時 1年 B組 令和5年2月18日(土) 1校時

2 本単元で育成したい資質・能力（評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識 球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。</p> <p>○技能 ボール操作と空間に仲間と連携して走り込みマークをかわしてゴール前での攻防をすることができる。</p>	<p>①攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。</p> <p>②自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>①一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする。</p> <p>②仲間の学習を援助しようとする。</p> <p>③健康・安全に気を配ったりしようとしている。</p>

3 単元「バスケットボール」について

バスケットボールは、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入してシュートを放ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うスポーツである。

本校の保健体育の活動では、勝敗に重きを置かず、個人やチームの能力や課題に適した作戦を考えて実践することや、仲間と協力をしてシュートチャンスを作り出すことを単元のゴールとし、学習を進めている。単元の始めには、学習に見通しをもたせ、目指す姿がイメージできるように、学習プランの確認を行っている。練習やゲームの実践では、考えたことや気付いたことを言語化し、説明する時間を確保している。既習知識を活用して、思考する場面を設けることで知識と技能の定着を図る。

球技【ゴール型】で育成していく資質・能力は、基本的なボール操作の習得、仲間と連携した攻防、空間に仲間と連携して走り込む動き、ゴール前での攻防である。さらに、生徒の活躍の場を増やせるように「する・見る・支える・知る」の視点から互いの良さを見つけ合えるように学習を行う。

4 生徒の学びの履歴

保健体育の授業では、「知っている、わかる（知識）」と「使える（技能）」の結びつきを意識した授業デザインを行っている。学習で得た知識を結びつけるためには、生徒が技能に対して疑問をもったり、必要性を感じたりしながら学習を進めることが重要となる。そのため、活動中に知識と技能の結びつきを確認する時間を確保したり、単元の最後の振り返りでは、学習した知識と技能が今後どのように活用していけるかを考えさせたりした。

1学年で学んだ球技は、ゴール型の「ハンドボール」「サッカー」、ネット型の「バレーボール」である。各授業では、参考動画や実技書とチームや自己の動画を比較して課題発見を行い、検証、実践、改善を行いながら解決に向けて学習を進めた。活動するグループは、学級の生活班を基本とし、多様な仲間との協働的な活動を通して、多面的で多角的な視点に気付き学習を深められるようにしている。

体育活動を充実させる工夫として、学習プラン、5アップ、検証タイム、アダブテーションゲームを取り入れている。それにより、生徒自身が見通しをもって活動したり、他者の課題を自分事として捉えて考えたり、仲間と援助し合いながら学習を深める姿が見られるようになってきている。さらに、学習改善のために学習の仕方を振り返ったり、体育活動で目指す姿を再確認したりする時間を確保することにより、主体的に活動を行う生徒が増えてきている。体を動かすことの楽しさや心地よさを心から感じ、生涯スポーツへとつなげる意識や、つながる知識・技能を身に付けていける体育活動を目指していきたい。

5 資質・能力育成のプロセス（11時間扱い、本時 は6時間目）

次	時	評価規準	【 】内は評価方法及び Cと判断する状況への手立て
1	1 3	知 バasketボールの歴史や特性, 高まる体力について理解している。(○)	【学習ノートの記述の確認】 C: 仲間と助け合い, 実技書やTPCを用いてBasketボールの楽しさを考え, 歴史や特性, 高まる体力について確認させる。
		知 技術の名称やその行い方について理解している。(○)	【学習ノートの記述の確認】 C: 仲間と助け合い, 実技書やTPCを用いて技術の名称や行い方について確認させる。
		態 学習の進め方や準備運動の行い方, 学習課題について理解しようとしている(○)	【行動の確認】 C: ホワイトボードに流れを記入し, 確認できるようにする。
		思 分担した役割を果たして, 自己やチームに適した課題を発見し, 練習の工夫をしている。(○○)	【行動の観察・分析】 C: キーワードやチームで記入したホワイトボードの内容を確認したり, アドバイス活動や学習ノートの内容を確認したりするように促す。
2	4 9	態 安全に留意し, 単元に対する疑問をもち, 練習や話し合いに主体的に参加しようとしている。(○)	【行動の観察】 C: 仲間の意見を聞き, 自分の意見も述べるようにできるように声掛けをする。
		思 課題の解決に向けて変容につながる練習内容を選択し, 仲間に伝えたり学習ノートにまとめたりすることができる。(○○)	【発言の観察・学習ノートの記述の分析】 C: 課題の選択につながるヒントとなるように学習ノートにラインを引き, 変容につながる選択ができているかどうか考えさせる。
		知 基本的なボール操作やパスを受けるための動きやシュートにつながるゴール前の攻防の方法を理解している。(○○)	【学習ノートの記述の確認・行動の観察・分析】 C: 貼りだされたキーワードを確認し, 実技書や参考動画で正しい動きを確認させる。
		技 基本的なボール操作やパスを受けるための動きやゴール前の攻防, ボールをもたない人の動きを理解している。(○○)	【行動の観察・学習ノートの記述の分析】 C: TPCで撮影した動画などから実際の動きを確認し, 動き方について考えさせる。
		思 練習やゲームを振り返り, 更なる課題を発見し他者に伝えようとしている。(○○)	【行動の観察・学習ノートの記述の分析】 C: TPCで撮影した動画と参考動画を検証したり, キーワードと照らし合わせながらホワイトボードに書きこみ確認したりするように促す。
10 11	態	これまでの学習を通して, 自己の変容や取組の工夫をまとめて, 評価・改善しようとしている。(◎)	【学習ノートの記述の分析】 C: これまでの学習ノートの記述や, 仲間との関わりを思い出させ, 学習の前後の様子を比較して今後の改善につなげるように促す。

主たる学習活動	指導上の留意点	時
<p>【貫くテーマ】 チームで協力してゴール下へ移動しシュートチャンスを作り出そう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元を通して貫くテーマと見通しの確認をする。 ・基本の技能に関する課題に対して仮説を立て、TPCで技能を発揮している姿の動画を撮影する。 ・他単元とのつながりを確認する。 ・単元を通して目指す姿を明確にする。 ・バスケットボールの歴史、特性、技術の名称を理解する。 ・実技本や参考動画と撮影した動画を比較して仮説の検証を行い、課題を明確にする。 ・単元を通して貫くテーマを再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもてるように目指す姿をイメージさせる。 ・学習ノートの記入の仕方、5アップ、キーワードの貼り出しとその活用の仕方、全員で楽しむ活動にするための工夫、スポーツの多様な関わり方について再度確認をしてから学習を進める。 ・【ゴール型】でつなげる意識は、基本的なボール操作の習得、仲間と連携して空間に入り込む動き、ゴール下までボールを運ぶ、ゴール前の攻防を展開させることを確認する。 ・空いたスペースに入り込む動き、タイミングよくパスを出す動き、相手をかかわす動きの視点から参考動画を確認できるようにする。 ・役割を確認してボールを持つ人、持たない人の動きからそれぞれの役割の必要性を考える。 	1 3
<p>【課題】 相手の動きを予測してボールを持たない人の動きを考えよう。</p> <p>[課題解決に向けてチームで活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームの課題を確認し、練習を行う。 ・練習の選択→検証→実践→振り返り <p>[全体で本時の活動のまとめのゲーム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5アップや課題の解決に向けた練習に一貫性をもたせたミニゲームを行い、生徒の活動や習得状況を確認させる。 <p>【課題】 役割を果たして空間を作り出しパスを組み合わせることでゴール下へ運ぼう。</p> <p>【課題】 「チームで協力をしてゴール下へ移動し、シュートチャンスを作り出す」</p> <p>[アダプテーションゲームの実施と振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードや共有スペースを活用 ・チームで決めた作戦を実施した結果を振り返り、どのようにしてゴール下まで移動したかを、役割ごとで個人の動きを確認し、作戦内容、練習内容、チームの動きを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己やチームの課題についての変容が見られるように技能のポイントや気付いたことを共有スペースに記入するように促す。 ・知識や技能の確認の際は、貼り出しているキーワードを確認するように促す。 ・チーム内の考えを学びの過程として残せるように、練習をTPCで撮影し、練習途中や最後の振り返りで活用する。 ・本時のテーマや、チームの課題達成のための練習となっていたかどうかを、毎時間の最後にチームで確認を行う。 ・アダプテーションゲームでは、パスやドリブルなど技能の定着に合わせてルールを変更させる。ゲームの内容を振り返り、生徒自身で学習を調整する過程を大切にさせる。 ・アドバイスチームを組み、互いにアドバイスし、援助し合いながらゲームを行う。適切なアドバイスができるように実技書やキーワードを確認するように促す。 	4 9
<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボールを通して学んだことや、自己の変容を振り返り、学習ノートにまとめる。 ・他単元とのつながりや今後活かせることの確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1次で撮影した動きと現在を比較して、「ゴール型」の単元で目指す姿に対してチームが成長した姿を確認させ、全体で共有を図る。 ・スポーツにおける多様性からの視点でも振り返りを行うように促す。 	10 11

6 学びの実現に向けた授業デザイン

【「学びに向かう力」が高まっている生徒の姿】

題材を通じて実現を目指す「学びに向かう力」が高まっている生徒の姿

既習の知識と技能を活用して課題を解決するとともに、協働的な活動を通して互いの違いを認め合い、助け合いながら学習に取り組んでいる姿。

【「学びに向かう力」を高めていくための指導と評価の工夫】

○観点別学習状況のあり方

1. 「知識・技能」の指導と評価

単元の始めに、ゴール型その他種目の振り返りで出てきた知識と技能をキーワード化して提示し、本単元で目指す姿と、学びのつながりを確認した。授業では、生徒の疑問や気付を可視化し、繰り返し仲間と確認したり、言語化したりして、チームごとに考えを深めていけるように意識させる。前半の検証タイムでは、参考動画や実技書と、個人やチームの動画を比較し、課題の明確化を目指して既存の知識と新たな知識を活用させながら仮説の検証を行った。バスケットボールの単元では、攻撃を重視し、基本的なボール操作、空間に仲間と連携して走り込む、ゴール前での攻防を目指して学習を展開している。課題達成に向けた練習ではTPCで動画を撮影し確認をしながら学習することで基本的なボール操作や動きの定着を図る。また、チームごとの課題に適した練習方法を思考し、実践、改善を行う。パスを受けるためにゴール前の空いている場所に動くことができているか、得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができているかなど具体的な内容で思考し、チームに適した実践ができているかを学習の様子や学習ノートで確認し、変容につなげていけるように声をかける。「知識・技能」の評価は、活動の様子を注意深く観察、授業の様子をTPCに残して習得状況の確認、学習ノートへの表出に加えて、目標を意識して練習、ゲームを行っている動画や記録を提出させて行う。

2. 「思考・判断・表現」の指導と評価

既存の知識・技能を活用して自己の課題発見や学習課題への取り組み方を工夫できるようにする。また、解決に向けて考えたことを他者に分かりやすく伝えることを目指す。そのため、生徒自身が「見通し・実践・振り返り」を意識し、試行錯誤しながら学習を進め、課題に適した練習方法を選択、改善しながら学習の調整を行っている。また、単元で貫くテーマを設定し、勝ち負けの視点ではなく、協力する視点を大切にすることで協働的な活動となり、自己やチームの変容を感じられるようにする。学習ノートには、気付きや工夫したことを記入させ、学習の過程を確認できるようにする。活動中はチームごとホワイトボードと共有スペースを活用し、全体共有を図る。他チームの意見も参考にして、課題の設定や解決に役立てられるようにする。「思考・判断・表現」の評価は、学習ノートへの表出や話し合いの内容、アドバイスの具体性などを見取り、ICTを用いて撮影したものと合わせて行う。

3. 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

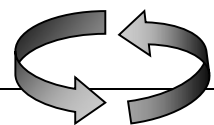
多様性を認め合い積極的に取り組むとともに、見通しをもった具体的な考えをもとに話し合いに参加できるようにする。また、自分なりにチームに貢献できること見つけて実践し、仲間の学習を援助しようとする生徒の姿を目指す。他者との違いを認め合ったり、学びのつながりを実感したりすることで生涯スポーツへの意識を高められるようにする。学習の中に「検証タイム」を設け、「課題設定」「練習内容の選択」「比較・検証」「課題解決」の流れから、生徒自身が学習活動に必要性を感じ、粘り強く取り組める姿を目指す。「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、生徒の活動や話し合いの様子を注意深く観察するとともに授業の様子をTPCに残して確認をする。また、学習ノートへの表出を合わせて行う。

○言語活動を充実させるための工夫

課題の発見・解決のために、既習の学習内容を関連付けて考えたり、実際の自分や仲間、チームの動きを理想の動きと比較・検討したりしながら、仲間とともに試行錯誤させる。他単元、他教科での学びを生かしながら学習する意識を3年間通して定着させる。

【本単元での指導事項】 ※（既習）は既習事項

- ・特性や成り立ちを知り、技術の名称や行い方を理解する。
- ・ゲームを展開するための基本的な技能や、仲間と連携した動きを身に付ける。（既習）



【本単元における、総合的な学習の時間（TOFY）とのつながり】（※「考えるための技法」はゴシック）

- ・自己や他者、自チームなどの課題の解決方法を、実技書やICT機器を使って確認したり比較したりするなどして多面的・多角的な視点で試行錯誤しながら見つけていくこと。